

カンボジア最大級の野生生物保護区の森林再生3年計画最終年
6/10(土)第3回「カンボジア プノンペン植樹」開催
800名のボランティアの皆さまと7,000本の木を植えます

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は6月10日（土）、カンボジア王国（以下、カンボジア）において第3回「カンボジア プノンペン植樹」を実施します。

植樹を実施するプノタマウ野生生物保護センターは、首都プノンペンから約45km南方に位置するカンボジア最大級の野生生物保護区にあります。現在絶滅の危機にある生物を含む100種1,200頭以上の動物が保護されており、市民の憩いの場としても親しまれています。一方、敷地内には、内戦や生活伐採により森林が荒廃し、早期の再生が必要とされる場所もあります。

当財団は、同センター内の森林再生と生物多様性の保全に取り組むため、2015年より3年計画で植樹をスタートしました。過去2年間で、カンボジアと日本の両国ボランティア約1,600名の皆さまとともに、地域に自生する苗木14,000本を植えました。最終年となる本年は、800名の皆さまと7,000本を植え、3年間の累計は21,000本となります。

当財団のカンボジアでの植樹活動は、2002年に始まり、シェムリアップの世界遺産アンコールワット参道沿い、並びにアンコール遺跡群チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡において、のべ1,220名のボランティアの皆さまと、10,360本の植樹を実施しました。同国における累計植樹本数は、本植樹を含め31,000本を超えます。

また、環境分野においてグローバルに活躍する人材育成を目的として、当財団が主催する「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」に、王立プノンペン大学が2015年より参加しています。さらに本年は、同大学にて国際的な視野で生物と文化の多様性について考えるセミナーを10月に開催する予定です。

今後も、いのちあふれる美しい自然を未来の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日時：2017年6月10日（土）9：00～10：30
場所：カンボジア王国 プノタマウ野生生物保護センター
参加者：800名（カンボジアのボランティア400名、日本のボランティア400名）
本数：7,000本
面積：1.5ha
主催：カンボジア王国農林水産省 森林局、公益財団法人イオン環境財団
協力：プノタマウ野生生物保護センター、イオンカンボジア、イオンモールカンボジア
イオンスペシャライズドバンクカンボジア
出席者：カンボジア王国 農林水産省 大臣 ヴェン・サコン 様
（予定）カンボジア王国 環境省 大臣 サイ・ソムオール 様
駐カンボジア王国 日本国特命全権大使 堀之内 秀久 様
公益財団法人イオン環境財団 理事長（イオン株式会社 名誉会長相談役） 岡田 卓也

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、2016年度までの累計植樹本数が1,144万本を超えました。

▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

【カンボジアでの植樹活動について】

■アンコールワット植樹（2002年、2004年、2005年）・

アンコールワット遺跡群チャウスレイ・ヴィヴオル遺跡植樹（2010年、2011年）

■イオン ふるさとの森づくり（2014年）

公益財団法人イオン環境財団は、2002年および2004年、2005年の3年間にわたり、世界遺産アンコールワット参道脇に880名を上回る方々と7,100本の植樹を行いました。また、2010年、2011年には、アンコール王朝の遺跡周辺に風雨から遺跡を守る森をつくるべく、340名の方々とともに3,260本の木を植えました。

2014年6月にはイオンモールプノンペンのオープンに先駆け、イオングループによる「イオン ふるさとの森づくり」が開催され、地域の皆さま1,500名とともに約10,000本の植樹を行いました。



【カンボジアにおける社会貢献活動について】

■「バタンバン義肢センター」支援（1998年～2000年）



公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）は、日本赤十字社とのパートナーシップのもと、1998年より3年間にわたりカンボジア・バタンバン義肢センターを支援しました。バタンバン義肢センターは、地雷で被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン1%クラブからの寄付金をあわせ同センターに1億7,300万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

■学校建設支援事業（2000年～2003年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い、2000年よりイオングループ店舗、事業所での募金を実施し、イオン1%クラブからの寄付金をあわせ総額3億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に150校を建設し、これまでに約37万名の子どもたちが学校を卒業しています。



2001年 カンボジア

■「シハヌーク・イオン博物館」寄贈（２００７年）

「シハヌーク・イオン博物館」は、上智大学アジア人材養成研究センターが２０００年、２００１年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、イオン１％クラブの寄付と上智大学の石澤 良昭教授チームとアプサラ機構の協力のもと、建設されました。カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくために国へ寄贈し、２００７年１１月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席されました。

■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン



カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、衛生的な水の確保が難しく、不衛生な池の水や、健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。また、遠方への水汲みに時間をとられ、学校で学べない子どもたちもいます。イオン１％クラブは各国の子どもたちを健康・教育の両面でサポートするために、子どもたちがくらす村や町に給水施設を設置する「イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」を２０１０年にスタートしました。２０１６年までに３カ国累計では約４９万３、０００名、うちカンボジアでは３７万９、０００名の方々が安全な水を使えるようになりました。

■ティーンエイジ アンバサダー／イオン スカラシップ

「ティーンエイジ アンバサダー」は、イオン１％クラブによる日本とアジアの次代を担う子どもたちへ価値観の多様性とグローバルな視野を持つ機会を提供する国際交流事業で、１９９０年より実施しています。これまでに、日本を含む１８カ国２、２５６名の高校生が交流し、うちカンボジアとのプログラムでは１２０名が交流しました。

また、日本で学ぶアジアからの留学生及びアジア各国の大学生・大学院生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」では、これまでに７カ国５、０４７名の学生に奨学金を支給し、うちカンボジアからの留学生及び同国内学生５９名に奨学金を支給しました。

■理事長 岡田卓也がカンボジア王国友好勲章大十字型章を受章（２０１０年）

長年にわたるカンボジア王国への環境・社会貢献活動がカンボジアの経済、文化交流の発展に貢献したと評価を受け、カンボジア王国より２００７年に「Le Grand Officer（将校章）」を、また、２０１０年には最高位である「Royal Order of Sahametrei Grand Cross（友好勲章大十字型章）」を親授されました。

